



### 自分ファーストではなく、誰かのことを考える人

どうしたら、苦しむ人に関われる担い手が、それぞれの地域で増えていくのでしょうか？その問いをいつも心に留めて活動を続けてきました。安易な励ましも慰める言葉も浮かばない死を目の前にした人に、誠実に関われる人を養成することは、簡単なことではありません。

永年、看取りの現場で学んで来た関わり方を、わかりやすい共通の言葉にすることを意識した研修を行ってきました。どのように声をかけてよいかわからない、私に何ができるのか見当もつかない、と嘆いていた人が、私にできることがあると気づいただけで、関わる自信を持つことができます。

援助職として、すでに志のある人達であれば、援助を言葉にすることを学ぶだけで、素晴らしい担い手になることができると思います。しかし、最近、これだけでは足りないものがあるのではと感じるようになりました。

- ・もし目の前で誰かが困っていれば、  
大丈夫ですか？と気づかう力
- ・もし目の前で誰かが苦しんでいれば、  
力になりたいと思う気持ち

これらの思いがなければ、どれほど援助を言葉にする力を得たとしても、何も変わらないのではと案ずるのです。

哲学者の西田幾多郎は、善の研究の中で、「知」のちからだけではなく、「愛」のはたらきの重要性を説いています。誰かを気づかい、思いやる温かい心が、どのように養われていくのか？

地域で苦しむ人が増えていくこれからの時代において、自分ファーストではなく、誰かのことを考えて行動できる担い手が必要です。

知識として「わかる人」ではなく、具体的に援助として関わることを「できる人」が増えていくために、まずは、今日一日、頑張ります。

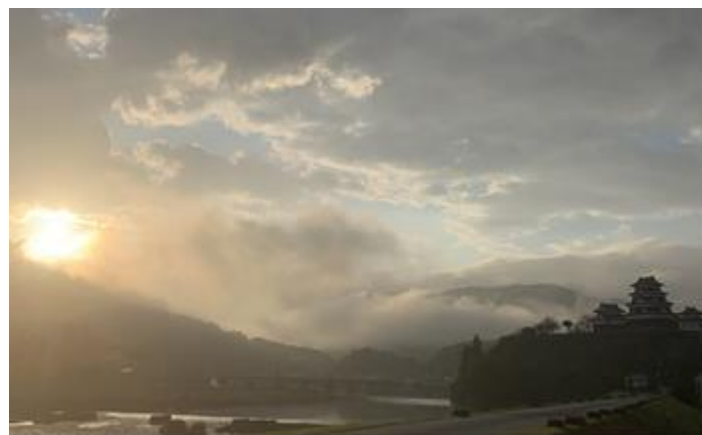
小澤竹俊

### 台風19号

台風19号で被災された皆さまにお見舞い申し上げます。広い範囲で被災されていることもあり、支援にあたる人達も、どこから手をつけてよいか悩むかもしれません。優先順位を意識しながら、はやい回復を祈っております。クリニックは、幸い、大きな被害はありませんでしたが、訪問診療エリア停電のため、緊急対応がありました。在宅の場合には、緊急時の対応が問われます。そのためにも、備えが必要です。今回の台風を1つの教訓に、さらに連携を深めていきたいと思えます。

### 医学部の講義

めぐみ在宅クリニックでは、医学生の実習を受け入れています。10月からは北里大学の医学生が2名ずつ実習に来ています。訪問先でも、患者さん・家族から、どんな医師になってほしいか、温かいコメントを頂くことも多々あります。在宅医療での関わりを通して、志の高い医師が一人でも多く増えていくことを願っております。



### 診療実績

	2006- 2018年	2019年 1月-6月	7月	8月	9月	2019年 計	総計
訪問回数	70,753	5,232	904	875	836	7,847	78,600
自宅永眠	2,252	130	15	15	18	178	2,430
施設永眠	349	37	5	3	2	47	396
在宅 (自宅+施設)	2,601	167	20	18	20	225	2,826
病院永眠	711	44	5	3	7	59	770